

相談事例*をご紹介します

*個人が特定されないよう、一部を加工しています。

ケース1 「仕事もない！お金もない！」

～相談内容～

自営業者のAさんは、新型コロナウイルスの影響で会社が倒産し、収入がなくなりました。生活が困窮したことから、かかりつけ精神科への受診ができなくなり、不調を訴えて相談に来られました。



～対応～

精神通院にかかる医療費の助成制度（自立支援医療）を案内し、通院が再開できたことにより体調が回復しました。就労について主治医に相談したところ、就労継続支援の利用をすすめられ、保健所職員が同行し障がい福祉課へ相談に行きました。現在は一般就労を目指して、就労継続支援A型で訓練を受けています。



ケース2 「生きている意味が見いだせない」

～相談内容～

Bさんは就職先が見つからず、生活が困窮しました。不眠や気持ちの落ち込みが続き、「生きている意味が見いだせない」と相談にみえました。



～対応～

保健所のこころのケア相談で、Bさんが抱えている問題や気持ちの整理を手伝い、福祉総務課の協力を得て、生活保護の受給など、生活の基盤を整えることができました。生活の基盤が整ったことで、精神科を受診することができ、心身ともに安定して生活を送ることができています。現在は、働くことについて前向きに考えられるようになり、求職活動を行っています。



ケース3 「ひとりぼっち？これからどうしたらいいの？」

～相談内容～

長年ひきこもり生活を送ってきたCさんは、サポートしてくれていた両親が亡くなったことで、経済的に困窮し、親族から福祉総務課に相談がありました。



～対応～

福祉総務課でCさんと面談したところ、精神的に不調な様子が見られたため、保健所の精神科医の相談日を案内しました。面談の結果、受診が必要な状態であることがわかり、精神科を受診し、現在は障害者年金を受給して生活を送っています。



何からどう解決すれば良いか分からないかた
まずは秋田市保健所 健康管理課にご相談ください
☎ 018-883-1180 (平日8:30から17:00まで)